消防職員のストレス免疫能力開発に関する基礎研究(1)

トレーニング・プログラムの効果測定における自由記述の分析

○菅沼憲治¹・吉澤英里²

(¹ 聖徳大学心理・福祉学部・² 環太平洋大学次世代教育学部)

キーワード：惨事ストレス、テキスト分析

Basic research on development of stress immune capacity for firefighters (1)

Kenji Suganuma¹ and Eri Yoshizawa²

(¹ Faculty of Psychology and Welfare, Seitoku Univ., ² Faculty of Education for Future Generations, International Pacific Univ.)

Key Words: Critical Incident Stress, content analysis

目 的

近年、災害救助に当たる消防官が殉職したり PTSD を発症したりしたことが報告され、消防官の惨事ストレス (Critical Incident Stress) へのケアに対する要請は増しており、消防官のストレス耐性を高めるようなトレーニング・プログラムの開発が急がれている。本研究の目的は、実際にプログラムを実施し、その効果を検討することである。

方 法

参加者 東京消防庁の支援デブリーファ研修に参加した消防官 40 名 (男性 36 名、女性 2 名) のうち、2 名は実施前のデータが収集できなかったため、38 名 (男性 35 名、女性 3 名) のデータを分析対象とした。平均勤続年数は 19.87 (SD 7.38) であった。

質問紙 はじめに、協力者は自然災害での救助を行っている写真 4 枚が提示され、このうちの 1 枚を選択した。その写真の状況で救助を行うという状況をイメージし、「1.出勤要請があり現場に向かう車内」、「2.要請現場に到着し、活動中」、「3.任務が完了して帰還する車内」、「4.職場に戻り、体験したことを報告するために、記憶を想起して文章にまとめ上司に報告する状況」のそれぞれについて、自由記述で回答した。なお、回答欄には Padesky & Mooney(1990)の認知モデルに基づき、身体、感情、思考、行動の各項目が設けられていた。

手続き 吉澤・菅沼 (印刷中) の金魚鉢方式のロールプレイの後で質問紙調査を実施し、記述内容の変化を比較した。

結 果

分析には KH Coder を用いた。トレーニング実施前後 (Pre・Post) と状況 (1~4) をあらわす名義変数 (Pre1~Pre4, Post1~Post4) を作成し、記述内容の変化を検討した。

思考 文章ファイルで 2 回以上出現した 139 語を対象に、対応分析を行った (Figure 1)。得られた情報から、移動中(1)には現場での活動をイメージしている様子が、活動後(3, 4)は現場での活動を振り返っている様子が、それぞれ読み取れた。トレーニング実施後の移動中 (Post1) は実施前 (Pre1) よりも、具体的な状況に対する不安感を示す語が布置された。

感情 95 語への対応分析を行った結果、活動後 (3, 4) でトレーニング前後の違いがあった。トレーニング前には肯定的な感情 (e.g., 喜び) を表す語が近くに布置される傾向にあったが、トレーニング後には否定的な感情 (e.g., 無力感、残念、疲れる) が布置されていた。

行動 140 語を対象に対応分析を行った結果、Pre3 では車内で隊員同士のやり取りが行われている一方、会話が少なくなる者もいることがわかった。トレーニング後 (Post3) は Pre3 から離れており、「ぼーっと」や「リラックス」といった語が近くに布置されていた。

身体 80 語を対象に対応分析を行った結果、状況の名義変

数はトレーニング前後で同じような位置に布置されていた。全体的な傾向として、活動後 (3, 4) では活動中の緊張を解く回答者がいる一方で、覚醒状態を維持している者もいた。

考 察

自由記述の内容は、移動中から活動中にかけてと、活動後 (帰署中から報告時) に分かれる傾向にあった。トレーニング前後の記述内容は、概ね同じような傾向を示していたが、若干の違いが生じた。特に、思考や感情においてトレーニング後にネガティブな記述がよく表れるようになっていた。これは、トレーニングによって、よりストレスフルな状況に向きあい、それをイメージしたり言語化したりすることができるようになったと解釈できる。

引用文献

Padesky, C. A., & Mooney, K. A. (1990). Presenting the cognitive model to clients. *International Cognitive Therapy Newsletter*, 6, 13-14.

吉澤英里・菅沼憲治 (印刷中). 消防職員のストレス免疫能力開発に関する基礎研究(2) 日本心理学会第 81 回大会 発表論文集.

¹ 本研究は学術研究助成基金助成金 (挑戦的萌芽研究, 課題番号: 16K13491) の補助を受けた。

Figure 1 「思考」で得られた自由回答への対応分析